

【歴史&宗教 No038】 出羽三山の名称配置の意味

図-1 a は出羽三山神社のHPトップより拝借した絵柄であり、図-1 b は手向お土産屋購入の手ぬぐい絵柄である。中央に月山を置いて、本体から見て、左手に羽黒山、右手に湯殿山を配置している。

図-2 b の地理上位置関係で比較すると、庄内（西）側から見た配置ではなく、村山（東）側から見た配置と一致している。

これらは、とりわけ、図-1 の配置は何を意図しているのだろうか。



図-1 a



図-1 b

西側から三山を見れば

羽黒山 月山 湯殿山

図-1 の配置とは違う

図-2 a



図-2 b

東側から三山を見れば

湯殿山 月山 羽黒山

図-1 の配置と同じ

図-2 c

次に出羽三山碑の配置について見る。

図-3aは旧湯殿山ホテル敷地にある湯殿山単独碑、同図bは山形市上桜田地区「(宗)月山神社」境内にある湯殿山中央の三山碑、同図cはネットのウィキペディア掲載、東漸寺(東京都習志野市津田沼)にある、同図dは千葉県佐倉市にある三山碑である。

中央に月山を置いても図-3cと3dに羽黒山と湯殿山の配置に違いが見える。



図-3a



図-3b



図-3c



図-3d

戻って、出羽三山神社のHPの配置の意図について考察する。

私の推測では、次の大きくは2とおりの3点が考えられる。

✓ 1 「左上右下」の根本思想を根拠とした見方

別記の “【歴史&宗教 No036】 ^{さじょううげ}「左上右下 (左尊右卑)」” のとおり。

① HPの配置は神仏分離の明治以降に考えたものだろうから、三神合祭殿のある羽黒山を、湯殿山に対する比較上位に配置したということだろう。(なお、図-3cの意図は、三山総奥の院としての湯殿山を比較上位としたことによるものだろう。)

② 蜂子皇子による出羽三山は羽黒山開山の歴史を根拠とした見方で、由良海岸に上陸した後、修行の地を求めて羽黒山を目指し、ついには観音菩薩の住む補陀落浄土と感得した阿久谷に籠り、難行苦行の末に悟りを得て羽黒山を開山し、続いて、月山、湯殿山の順に開山した歴史を踏まえて、羽黒山を最上位に据えたということだろう。

✓ 2 東西軸重視の思想を根拠とした見方

③ 日本は往古より農耕社会だから『太陽』と『月』の恵みを中心に世の中を考え、統治するという仕組みが出来ていた。そのため、東西の軸を大切にしていた思想を踏まえ、太陽のいずる東を背に西に沈むまでを見守るという思想のもと、地理的に東側から三山を見た配置に合せたということだろう。

例えば、配置根拠の明瞭な文書が無いとしても、最初に思い付いた先人は、この3点が、あるいは、いずれかが頭にあって、このような配置にしたのだろうと推測している。

<end>